

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	いるかくらぶBASE2		
○保護者評価実施期間	2025年1月10日		～ 2025年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		～ 2025年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の中に体操遊びを取り入れる事ができる。 (体操遊びを行える場所がある。体操を指導できる職員がいる。)	・体操遊びの活動を定期的かつ継続的に行っている。 ・身体を動かす楽しさを知ってもらい、意欲的に活動に取り組む事ができる様な内容、声掛けを心掛けている。 ・子ども自身が出来る事を実感し達成感を得られるよう、子ども達の姿にあった活動内容を検討し実施している。	・基本的には全年齢にあった内容での活動が多いが、個々の能力やレベルにあった個別の支援も行っています。 ・今後さらに活動内容をレベルアップさせ、より充実していくよう、振り返り・検討・実施をしていきます。
2	食育を意識した活動行っている。 (畑を所有している。手作りおやつを提供。ダイニングの実施。多方面から食に関する事を意識した活動を企画・実施している。)	・手作りおやつの日が決まっており、旬のものや季節・行事等を意識した内容のものを提供している。食を通して子ども達に四季や行事などを感じてもらえるよう工夫している。 ・いるかふあーむで栽培・収穫体験をしたり、収穫したものを使ってダイニングの活動を行ったりと、自分達で作って食べる経験を大切に考えている。 ・ただ食べるのではなく、皆で食べる事や作って食べる事等を通して「食べる＝楽しい」という事を感じられるように意識して支援している。	・今後も手作りおやつを提供を継続していきます。 ・おやつ時間・昼食の時間を通して、食事のマナーが定着していくよう、支援・指導を続けていきます。 ・畑での農業体験や施設での作物の栽培など、自分達で手を掛けて育てる活動を増やしていきます。 ・食を通して行事や季節を知る・意識することを目標とします。 ・楽しく食べる事が子どものモチベーションアップに繋がる事を期待します。
3	生活力を身につける、向上させていく事に重点を置いた支援・療育。	・子ども一人ひとりにとって必要な力、伸ばしたいところを見極め、将来を見据えながら支援方針を検討している。 ・衣食住に関する気を付けたい事や意識して欲しい事を繰り返し伝え続ける事で、利用児にとって必要な力が定着していくよう、利用児・職員共に意識している。 ・短期間で出来るようになるのではなく、長期的・継続的に支援をする事で子ども自身に定着することを期待している。	・自分の人生に必要な力を身に付けることを大きな目標とし、一人ひとりにあった支援・療育の充実を図っていきます。 ・自分でできた、一人でもできたを増やせるように支援していきます。 ・地域資源を知り、自分の生活している地域の中で必要な情報やサポートなどの繋がりも見つけていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者向けの情報発信 ・保護者会・保護者向け研修会等の開催	・日常の様子や活動内容が、まだまだ保護者のもとに伝えきれていない。 ・保護者向けの研修会や保護者会の開催ができていない。 ・日時や場所の確保、また職員配置・研修会の内容(講師の有無など)など、企画の段階での課題も多い。	・SNSを活用し、もっと日常の様子や必要な情報を発信していく。ただ投稿するのではなく、“見てもらえる・目に留まる”ような発信の仕方を工夫する必要がある。 ・まずは保護者の方も参加できる研修会や活動を企画する。対面での参加方法だけでなく、オンラインでも参加できるようにしたり、配信で後から見られるようにするなど、様々な方法も検討してみる。なるべく保護者の方にも参加していただけるよう工夫する。 ・まだまだここからの情報発信が届いていない現状も感じる。保護者の方に積極的に発信・呼びかけをして見てもらう工夫をする。
2	・医療機関やこども園・幼稚園等の関係機関との連携・情報共有の不足 ・就労支援先等との連携・情報共有の確立	・現状として、医療機関からの情報は保護者を介して情報共有出来ている部分もあるが、こども園・幼稚園などの情報共有は出来ていない。 また、現在利用している利用児に関して、学校との情報共有はほとんど出来ていない。 ・医療機関・こども園・幼稚園等とはどのように繋がっていくのか手段がわからない。 ・学校とも、送迎時に顔は合わせるが様子等を聞ける機会は少ない。	・対面でのやり取りに限らず、指導記録や意見書など書面でのやり取りでもいいから、利用児の情報を共有できるツールを見つけていきたい。(保護者の方を介してのやり取りや実際に向いて話を聞くなど、可能であれば関係機関の職員が集まってサービス担当者会議の様なものを開催出来たら嬉しい。) ・新入学する利用児に関しては、こども園・幼稚園などからの引継ぎができると嬉しい。それまでの様子等共有したい。
3	・利用希望者が求める利用希望時間と現在の利用可能時間との相違	・小学校高学年、中学生、高校生の利用児の下校時刻が遅くなることで、利用したくても時間的に利用困難なケースが増えてきている。 ・下校の早い日や休日に利用している利用児もいるが、コンスタントに利用する事が難しい現状もある。	・現実的に、今すぐに受け入れ時間等を変更することは難しいが、職員の気持ちとしては希望がある限り、受け入れができる様な体制を整える事ができたらと思っている。 特に中学生・高校生は時間的に利用する事が難しくなってしまう、コンスタントに利用ができず、利用日数の減少や継続的な支援の困難に繋がっている。